〇委員会の審議結果（要旨）

１．平成２３年シーズン調査結果

【審議結果】

・　平成２３年シーズン工事の配慮対象となるクマタカ、オオタカのつがいについてモニタリング調査した結果、飛翔状況や繁殖状況等から、工事による影響は確認されなかった。

・　今後も引き続き、希少猛禽類の生息環境及び繁殖に配慮しながら工事を進めていく必要がある。

【主な調査結果】

〇生息状況

・　調査範囲には、クマタカ７つがい、オオタカ１つがいの生息が確認された。

〇繁殖状況

・　クマタカ２つがいが繁殖に成功し、幼鳥が１羽ずつ、計2羽の巣立ちが確認された。

・　このうち１つがいは、３年連続で繁殖の成功が確認された。

・　また、オオタカ１つがいが繁殖に成功し、幼鳥２羽の巣立ちが確認された。

２．平成２４年シーズン配慮計画と調査計画

【審議結果】

・　平成２４年シーズン配慮計画と調査計画について説明し、了承された。

・　なお、今後のモニタリング調査結果により、工事予定箇所付近に営巣が確認された場合には、施工時期を見直すなど十分配慮する必要がある。

【主な配慮計画・調査計画】

・　平成２４年シーズン工事の配慮対象となるつがいは、クマタカ６つがい（工事の終了に伴い、対象１つがいが減）、オオタカ１つがいとなる。配慮計画は、工事時期の調整や工事照明の調整の他、工事の騒音・振動、建設機械の存在に徐々に慣れさせていくコンディショニングを実施する。

・　平成２４年シーズンの調査計画は、工事の影響に関するモニタリング調査の他、行動圏が特定されていないクマタカの行動圏把握のための詳細調査及び巣の位置が明らかにされていない巣の調査も実施する。

・　この他、行動圏の把握が特定されている猛禽類の行動圏の変化についても検討する。

第14回　津軽ダム猛禽類検討委員会　出席委員

名称　津軽ダム猛禽類検討委員会			
氏名	所属	役職	備考
東　信行	弘前大学	准教授	
小笠原暠	秋田大学	名誉教授	委員長
小山信行	日本野鳥の会　弘前支部	支部長	
関山房兵	猛禽類生態研究所	所長	
竹原明秀	岩手大学	教授	
宮川圭司	自然写真家		
由井正敏	東北鳥類研究所	所長	

※五十音順